

大阪ブランド情報局は、大阪のさまざまなブランド資源情報を発信するホームページです。その最新情報のいくつかをご紹介します。

## 拡大版 21cafe

### 「いま、大阪の文化を考える!!」

2008年5月28日(水) / 芝川ビル(大阪市中央区)

#### 大阪再生に必要なこと

5月に開催された21cafeは、「いま、大阪の文化を考える!!」と題し、大阪府の財政改革案を受け、大阪の文化について掘り下げた議論を行った。雑誌『上方芸能』代表・発行人の木津川計氏は、「今の大阪に必要なのは、文化を中心にした“都市格”と、経済をベースにした“都市力”をともに向上させること。文化の発展による魅力度の向上は、大阪という都市への吸引力を経済だけでなく、さまざまな面にもたらすだろう」と問題提起し、文化による大阪再生の道筋を示した。

#### 大阪21世紀協会の役割

木津川氏の発言を受け、ワッハ上方館長の伊東雄三氏は、「文化を支えるのは人間である。大阪人のバイタリティ・笑い・根性をどう評価するか。大阪の文化を支えてきたのは、こうした民の力だ」と述べ、清風明育社理事長の平岡龍人氏は、「文化は大事。まちの活力は非生産的な人間をどれだけ抱えられるかによっている。一方で、大阪は大きく財政破綻している。今こそ官の役割を見直し、民間を活躍させるための法制度を整備する必要がある」と官民の役割分担を強調した。また、アートコーポレーション専務・村田省三氏は「大阪の都市ブランド戦略を進めていくときに、従来は各自自治体・経済団体がそれぞれ別々に取り組んできたが、大阪21世紀協会がそのプラットフォームを引き受けてくれたことでうまくいった。寄付についても同じで、きちんとした受け皿をつくる必要がある」と、大阪が一枚岩となるためのプラットフォームの重要性を指摘した。



木津川計氏



伊東雄三氏



平岡龍人氏



村田省三氏



堀井良殷 理事長

#### 文化の森を育もう

登壇者の発言を受け、大阪21世紀協会・堀井良殷理事長は、「クラシックや歌舞伎など人類が開発した文化的資産は、誰でもそれを享受する権利があり、それにより感性が養われ、創造的の市民が育つ。そして自分たちも何かやってみようとすることで、創造活動に転化していく。そうした文化の森をきちんと手入れしておくことは大事」と、文化を支える意義を示した。

## 注目の“人財” 続々登場! 「多士彩才」

<http://www.osaka-brand.jp/>

大阪を舞台に活躍する多彩でユニークな人々のコーナー「多士彩才」。水都の魅力をアピールするプロデューサー、長屋再生からまちの再生を仕掛ける建築家、お寺を拠点に多様な文化活動を繰り

広げる若き僧侶、都市の公共空間の使い方を提案するランドスケープデザイナーなど、注目の人材が続々登場しています。人材は人財、人こそ大阪の宝。多士彩才から大阪のエネルギーを感じてください。

### クローズアップ

#### 仏料理界の巨匠 アラン・デュカス氏が表敬訪問

2008年6月6日(金) / 大阪市公館

フランス料理界の巨匠・アラン・デュカス氏が平松邦夫大阪市長を表敬訪問し、10月に西梅田にオープンするフレンチレストラン『ル・コントワールド・ブノワ』についてアピールしました。世界に20以上のレストランと4つのオーベルジュ(宿泊できるレストラン)を展開するデュカス氏。大阪出店に当たっては、たこ焼きからうどん、割烹、料亭に至る大阪の食を体験し、大阪の素材・風土・気風を検証して店づくりに活かしたいといます。

訪問を受けた平松市長は、「ぜひ大阪に新しいテイストをつけていただきたい」と、デュカス氏の出店に期待を込めました。

